

オアシス新聞

第5号

いっつ知ってっ、夏の虫(その1)

毎日クワクワするような暑さが続きます。私たち人間や犬などの動物たちは、日陰や涼を見つけてはくったりとしています。昆虫たちは夏の訪れを喜び、元気いっぱい活動をしています。

まず鳴き声を聞き、本格的な夏が来たなと感じるセミ。その中でも一番乗りは梅雨の最中から活動を始めるニイニイゼミ。小さな声で「チー」と鳴き、初め数匹程度ではあまり気にも留めない鳴き声。次第に数を増やして大合唱となり、おっ、ニイニイゼミと気が付きます。続いて早朝や夕方に聞こえてくる悲しげな鳴き声のヒグラシ。「カナカナ…」と聞こえてくると、早く家に帰らなくちゃという気分になります。そして真夏の代表格、ミンミンゼミ。日中の暑い時間帯、その名の通り「ミンミンミン」とけたたましく鳴きたて、暑い日よりも一層暑苦しく感じられます。

鳴き声がないので探すのが大変だけど、見つけられたら大興奮間違いなしはカブトムシとクワガタムシ。それぞれの雄は角やハサミのような大あごを持ち、雌や餌場をめぐって争う時に使います。先が枝分かれした大きな一本角が見事なカブトムシ。角をぶつけ合い、相手を投げ飛ばしたほうが勝ちとなります。クワガタムシでもっとも見付けやすいのはコクワガタ。小さいものだと雄は2cm未満のものもあります。反対に日本で一番大きいのはオオクワガタ。7cm以上になる雄もいます。また大あごが立派なのはノコギリクワガタ。大あごが全長の3分の1以上をしめています。大あごが大きいものも小さいものも、指などを挟まれると非常に痛いので注意してくださいね。

セミの幼虫が長い年教工の中で過ごす事はよく知られている。成虫の期間が2週間程度。鳴き声が多少うるさくてもがまんしてあげよう。ちなみに鳴いているのは雄で雌を呼びよせるためである。



羽を伸して飛びまわるぞ!!

羽化したばかりのセミはブルーがかった乳白色で宝石のように美しい。

カブトムシやクワガタの雄はよいエサ場や雌を得るため体が大きい方が有利である。でも常に戦いをしいられる。大型の雄はケガがたえない。小型の雄は争っても勝ち目はないので、早めにエサ場へ行ったり大型の雄の目を盗んで雌と交流したりとのらりくらり生きている。大型と小型どっちがトク!?

